

大竹市学校施設等長寿命化計画 (学校施設等個別施設計画)

令和3年3月

大竹市教育委員会

目 次

(1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	1
① 背景	1
② 目的	1
③ 計画期間	1
④ 対象施設	1
(2) 学校施設の目指すべき姿	2
(3) 学校施設の実態	3
① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態	3
② 学校施設の老朽化状況の実態	8
(4) 今後かかる維持・更新コスト	10
① 従来の修繕・改修と維持更新コスト	10
② 長寿命化による修繕・改修と維持・更新コスト	12
(5) 学校施設整備の基本的な方針等	14
① 学校施設の規模・配置計画等の方針	14
② 改修等の基本的な方針	17
(6) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	18
① 改修等の整備水準	18
② 維持管理の項目・手法等	18
(7) 長寿命化の実施計画	19
① 改修等の優先順位付けと実施計画	19
(8) 長寿命化計画の継続的運用方針	20
① 情報基盤の整備と活用	20
② 推進体制等の整備	20
③ フォローアップ	20

(1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

① 背景

大竹市の学校施設は、昭和30年代から50年代に児童生徒の増加にあわせて整備し、平成23年度からは学校の統廃合を含めた施設の耐震化を進めてきました。耐震化事業は平成28年度に玖波小学校の改築事業が終了し、市内小・中学校の耐震化率100%を達成しました。

しかし、この間市内小中学校7校のうち4校で校舎の建て替えを集中的に行ったこと及び同時期に給食センターを建設したことにより、この期間に整備した学校施設等について、今後大規模改修や建て替えに多額の費用が必要となると考えられることから、これらの施設の適正な維持管理が課題となることが予想されます。

② 目的

「大竹市学校施設等長寿命化計画」は、上記の背景を踏まえて学校施設等を総合的観点で捉え、可能なものは長寿命化し、適正に改修・建て替えるとともに、教育環境の質的改善も考慮しながら改修・建て替え等を検討するための詳細診断の優先順位を設定しつつ、これに要するコストの縮減と平準化を図ることを目的として策定します。

なお、本計画は「大竹市公共施設総合管理計画」に基づく学校施設等の個別施設計画として位置づけるとともに、施設整備計画は本計画に基づき策定します。

③ 計画期間

令和3年度から令和27年度までの25年間を計画期間とします。

ただし、児童生徒数の変化や関連計画及び社会情勢等に変化があった場合は適宜見直しを行うものとします。

④ 対象施設

本計画における対象施設を以下に示します。

学校	
小学校	4校
中学校	3校
学校給食施設	
大竹市給食センター	1施設

※ただし、倉庫や部室等小規模な建物（概ね200㎡以下）については対象外

(2) 学校施設の目指すべき姿

子どもも住民も行きたくなる“安全・安心”な学校づくり
～小学校・中学校・家庭・地域の連携と協働～

1

安全・安心な学校づくり

- 校舎等耐久性の高い、安全な校舎の整備
- 地域と協働による不審者対策等安全を確保できる学校づくり
- 災害時避難所としての有効な活用
- 障害のある子どもや地域の障害者、高齢者等も利用しやすいバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化

2

小学校・中学校・家庭・
地域が連携する学校づくり

- 豊かな人間性、確かな学力、健康と体力を育む施設整備
- 小学校と中学校で共有できる教室等、異学年交流の場の整備
- 地域交流が盛んになり、地域に親しまれる学校づくり

3

地域や環境に溶け込んだ
学校づくり

- 思い出に残る学校づくり
- 自然を生かした学校づくり
- 地域と協働で取り組む農園や景観づくり
- 地域の特性を活かしたエコロジーな学校づくり
- 地域のランドマークとして誇れる学校づくり

4

快適でのびのびした
学校づくり

- トイレ等の衛生的な環境整備
- 子どもたちがのびのび動ける校庭、体育館、プール等の整備
- 情報機器の導入や校内LANなど高度情報化に対応した施設整備

小方地区小・中学校移転建築基本構想抜粋

(3) 学校施設の実態

① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

1) 対象施設一覧

本市には、小学校4校（うち1校は休校中）、中学校3校、合計7校の学校施設及び給食センターが1施設あります。小学校全体の延床面積は20,578㎡、中学校全体は18,867㎡、また、小中一体型施設の小方小中学校の敷地内にプール施設879㎡があり、小・中学校と給食センターを合わせた延床面積は41,649㎡です。

施設一覧

(令和2年5月1日時点)

名 称		住 所	延床面積（㎡）		建築年度	児童生徒数（人）		学級数（学級）	
						通常 学級	特別 支援	通常 学級	特別 支援
小 学 校	1 玖波小学校	玖波7丁目 1－1	校舎	3,095	H28	106	5	6	2
			体育館	726	S54				
	2 小方小学校	小方ヶ丘 1－1	校舎	5,200	H24	451	13	14	2
			体育館	1,431	H24				
			プール	403					
	3 大竹小学校	白石2丁目 1－1	校舎	6,740	H21・22	619	17	18	5
			体育館	1,762	H6				
	4 栗谷小学校	栗谷町小栗 林510	校舎	1,125	S57	0	0	0	0
			体育館	499	S57				
小学校 計				20,981	—	1,176	35	38	9
中 学 校	1 玖波中学校	玖波4丁目 12－1	校舎	3,962	S56	48	2	3	1
			体育館	792	S56				
	2 小方中学校	小方ヶ丘 1－1	校舎	4,424	H24	187	3	6	2
			体育館	1,663	H24				
			プール	476					
	3 大竹中学校	白石1丁目 8－1	校舎	6,279	H16	291	3	9	2
			体育館	1,747	H3				
中学校 計				19,343	—	526	8	18	5
小・中学校 合計				40,324	—	1,702	43	56	14
大竹市給食センター				1,325	H24				
全施設合計				41,649	—				

2) 児童生徒数及び学級数の変化

【小学校】

市内小学校の児童数は、令和2年5月1日現在1,211人です。

児童数は40年前（昭和55年度）の3,648人の約33%となっています。

【中学校】

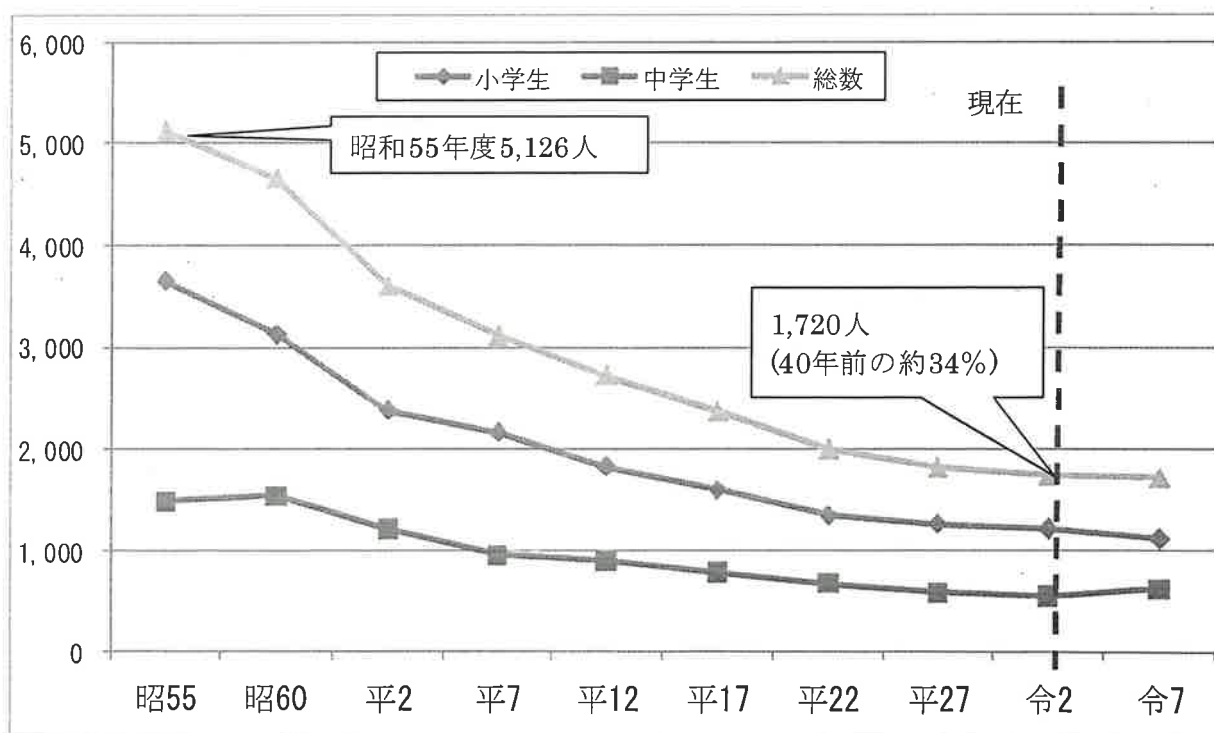
市内中学校の児童数は、令和2年5月1日現在534人です。

生徒数は40年前（昭和54年度）の1,478人の約36%となっています。

＜児童生徒数＞

(人)

	これまでの推移									将来 推計
	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025
	昭 55	昭 60	平 2	平 7	平 12	平 17	平 22	平 27	令 2	令 7
小学校 児童数	3,648	3,120	2,386	2,166	1,830	1,597	1,339	1,255	1,211	1,108
中学校 生徒数	1,478	1,540	1,212	945	888	773	660	569	534	612
合計	5,126	4,660	3,598	3,111	2,718	2,370	1,999	1,824	1,745	1,720

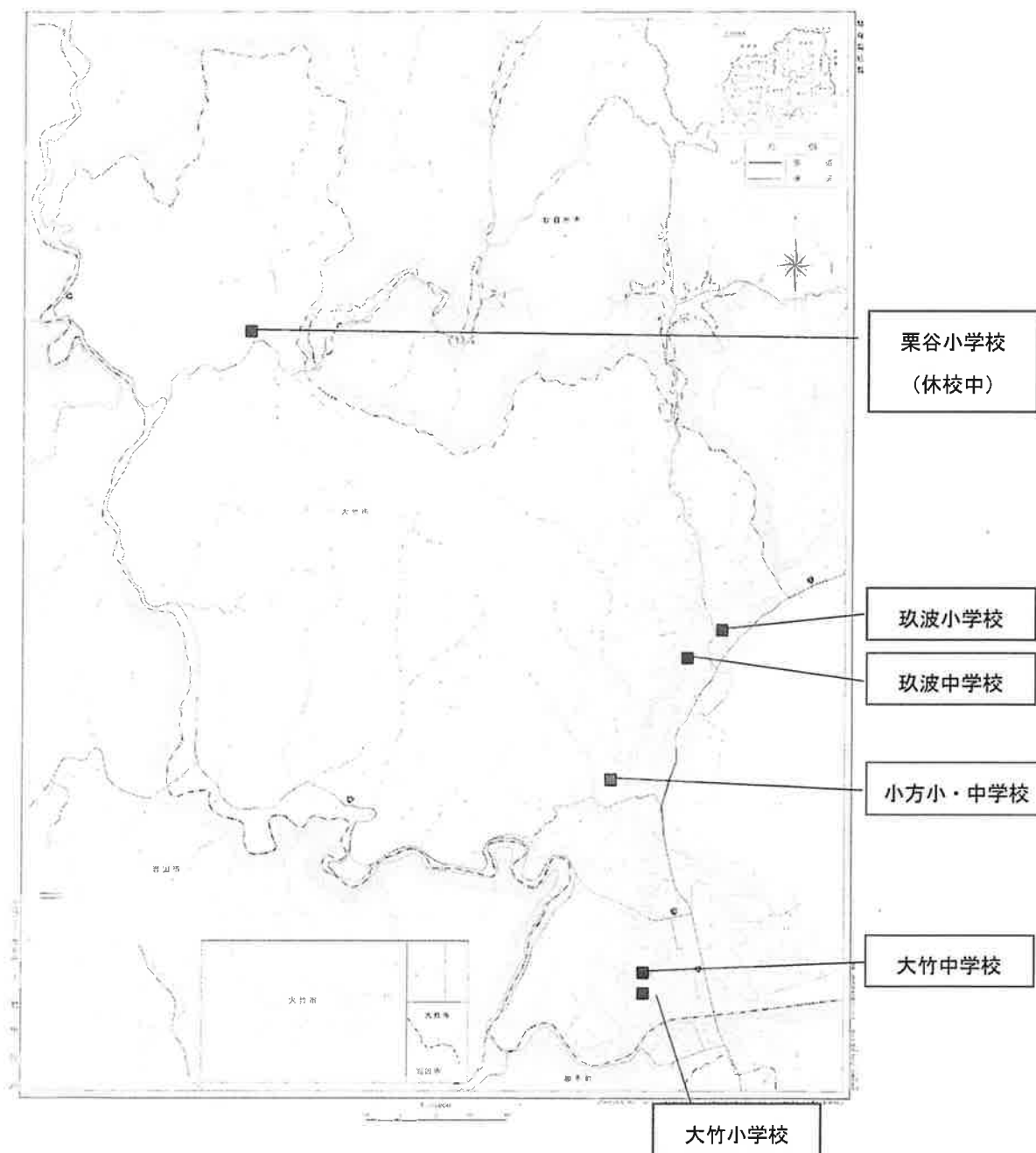


3) 学校施設の配置状況

児童生徒数の減少に伴い、平成20年～平成25年にかけて小学校8校を4校に、中学校4校を3校に統合しました。

現在の配置状況は次のとおりです。

大 竹 市 学 校 配 置 図



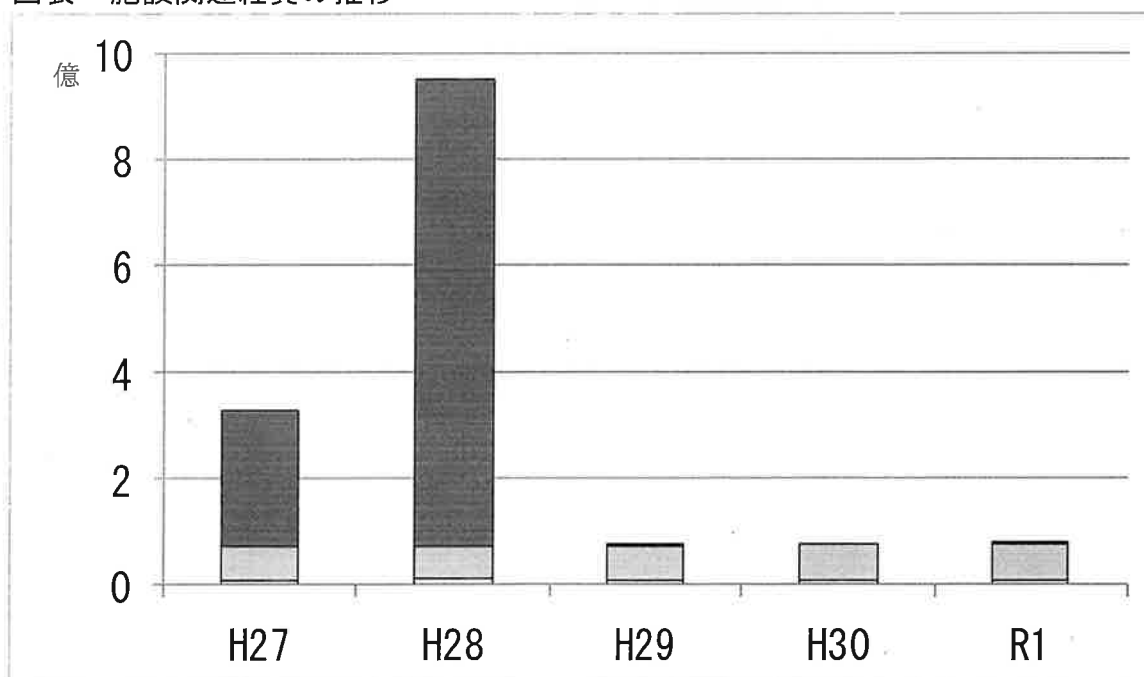
4) 施設関連経費の推移

4) 平成27～令和元年度の5年間の学校教育施設の関連経費は約0.7億円～約9.5億円で、5年間の平均は約3.0億円/年となります。

(単位：円)

	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	5年平均
施設整備費	255,914,388	880,122,200	1,704,564	321,280	5,154,840	228,643,454
維持修繕費	7,241,246	9,468,628	7,629,887	7,980,411	8,449,122	8,153,859
光熱水費・ 委託費等	62,913,523	60,577,810	64,095,634	67,331,650	66,187,398	64,221,203
施設関連経 費合計	326,069,157	950,168,638	73,430,085	75,633,341	79,791,360	301,018,516

図表 施設関連経費の推移

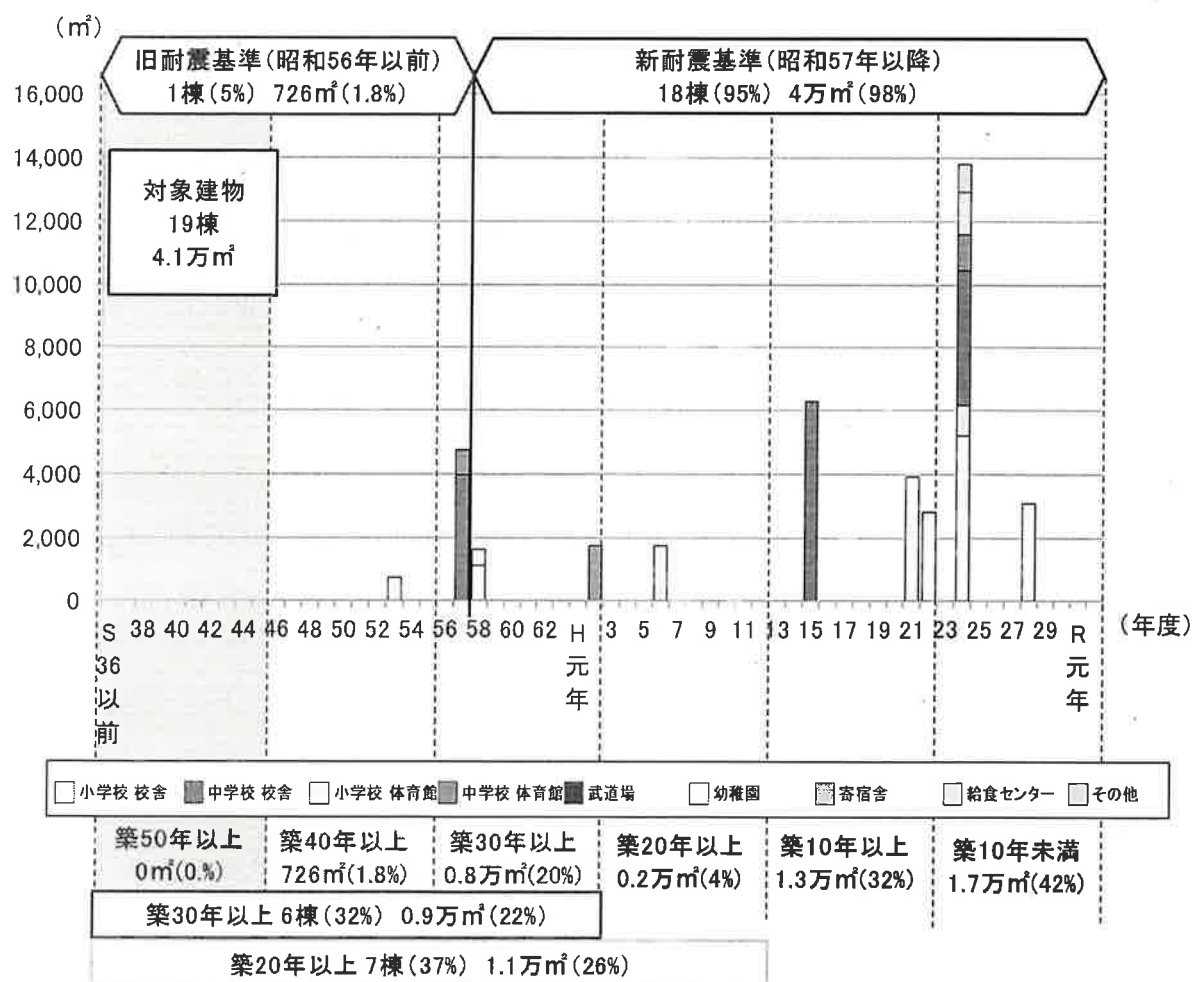


5) 学校施設の保有量

この計画で対象の施設としている小中学校は、築40年以上の建物が1棟、築30年以上の建物が5棟、合計8、851㎡（21.8%）と、19棟の内6棟の老朽化が進んでいます。また、10年後には全施設19棟の37%にあたる7棟が築30年以上の建物となります。

ただし、現在、築50年以上の建物はなく、19棟の内18棟は新耐震基準以降に建てられており、残りの1棟も耐震補強工事を実施していることから、調査等により建物の状況を把握する事で、長寿命化による対応が可能であると考えられます。

築年別整備状況



②学校施設の老朽化状況の実態

構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

<調査・評価方法>

劣化状況調査表を用いて構造躯体以外の劣化状況を把握し、屋根・屋上、外壁は目視状況により、内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修年からの経過年数を基本にA、B、C、Dの4段階で評価します。

○評価基準

① 目視による評価

【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
A	概ね良好
B	部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）
C	広範囲に劣化（安全上、機能上、不都合発生の兆し）
D	早急に対応する必要がある （安全上、機能上、問題有） （躯体の耐久性に影響を与えている） （設備が故障し施設運営に支障を与えている）等

② 経年数による評価

【内部仕上げ、電気設備、
機械設備】

評価	基準
A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
D	経過年数に関わらず 著しい劣化事象がある場合

○健全度の算定

健全度とは、各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標です。①部位の評価点と②部位のコスト配分票を下表のように定め、③健全度を100点満点で算定します。なお、②部位のコスト配分票は、文部科学省の「長寿命化改良事業」の校舎の改修比算定表を参考に、同算定表における「長寿命化」の7%分を、屋根・屋上、外壁に案分して設定しています。

① 部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

② 部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60

③ 健全度の算出

総和（部位の評価点×部位のコスト配分）÷ 60

※100 点満点にするためにコスト配分の合計値で割ります。

※健全度＝数値が大きいほど良好で、数値が小さいほど劣化が進んでいます。

○構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

5つの部位の劣化状況の評価を建物ごとに集計し、現時点での当該建物の健全度を相対的に示す指標が算出します。

健全度は、優先的に改修する建物の順位付けを行う際に参考にします。

(例)

健全度 40 点未満の場合、優先的に長寿命化改修等の対策を講じる。

健全度の点数に関わらず、C、D 評価の部位は、修繕・改修を行う。

建物基本情報													構造躯体の健全性						劣化状況評価						
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	固定 資産 台帳 番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年 数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100点 満点)	
						学校種 別	建物用 途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/㎡)							試算上 の区分
1		秋波小学校	校舎			小学校	校舎	RC	3	3,095	2016	H28	4	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	
2		秋波小学校	体育館			小学校	体育館	RC	2	726	1978	S53	42	旧			H25	28.1	長寿命	B	B	C	D	C	53
3		小方小学校	校舎			小学校	校舎	RC	3	5,200	2012	H24	8	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	
4		小方小学校	体育館(小ホール)			小学校	体育館	RC	1	955	2012	H24	8	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	
5		小方小学校	プール			小学校	その他	RC	1	879	2012	H24	8	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	
6		大竹小学校	校舎	A		小学校	校舎	RC	2	2,632	2009	H21	11	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	
7		大竹小学校	校舎	B		小学校	校舎	RC	2	1,287	2009	H21	11	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	
8		大竹小学校	校舎	C		小学校	校舎	RC	2	1,431	2010	H22	10	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	
9		大竹小学校	校舎	D		小学校	校舎	RC	2	1,390	2010	H22	10	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	
10		大竹小学校	体育館			小学校	体育館	RC	2	1,762	1994	H6	26	新				長寿命	B	A	B	B	B	82	
11		栗谷小学校	校舎			小学校	校舎	RC	2	1,125	1983	S58	37	新				長寿命	A	A	B	B	B	84	
12		栗谷小学校	体育館			小学校	体育館	RC	1	499	1983	S58	37	新				長寿命	B	A	B	B	B	82	
13		秋波中学校	校舎			中学校	校舎	RC	3	3,962	1982	S57	38	新				長寿命	B	B	B	B	B	75	
14		秋波中学校	体育館			中学校	体育館	RC	1	792	1982	S57	38	新				長寿命	A	A	B	B	B	84	
15		小方中学校	校舎			中学校	校舎	RC	3	4,303	2012	H24	8	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	
16		小方中学校	体育館(大ホール)			中学校	体育館	RC	1	1,138	2012	H24	8	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	
17		大竹中学校	校舎			中学校	校舎	RC	3	6,279	2003	H15	17	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	
18		大竹中学校	体育館			中学校	体育館	RC	3	1,747	1990	H2	30	新				長寿命	B	A	B	B	B	82	
19		大竹市給食センター				給食センター	給食センター	S	1	1,325	2012	H24	8	新				長寿命	A	A	A	A	A	100	

(例) 栗谷小学校体育館

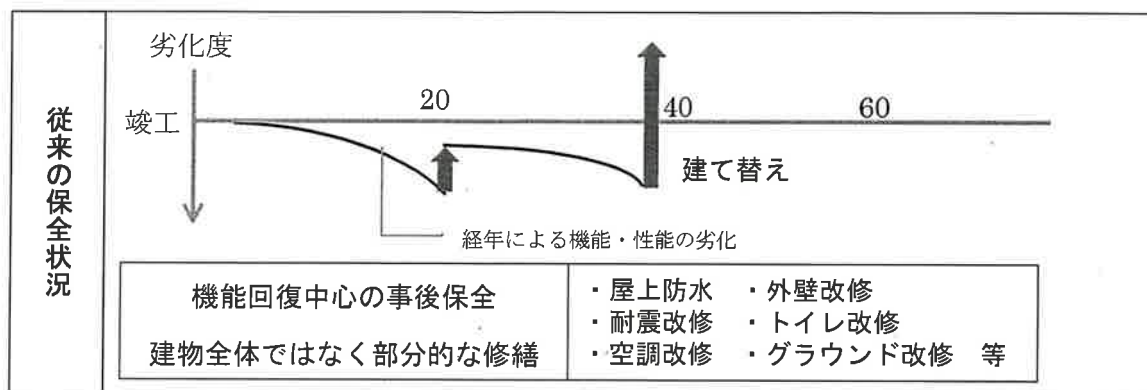
	評価		評価点		配分		(四捨五入)
1 屋根・屋上	B	→	75	×	5.1	=	383
2 外 壁	A	→	100	×	17.2	=	1,720
3 内部仕上	B	→	75	×	22.4	=	1,680
4 電気設備	B	→	75	×	8.0	=	600
5 機械設備	B	→	75	×	7.3	=	548
						計	4,931
							÷ 60
						健全度	82

(4) 今後かかる維持・更新コスト

①従来の修繕・改修と維持更新コスト

1) 従来の修繕・改修

従来、大竹市の学校施設は38年～42年と約40年で建て替えを行い、約20年毎に電気設備等の修繕を行っています。

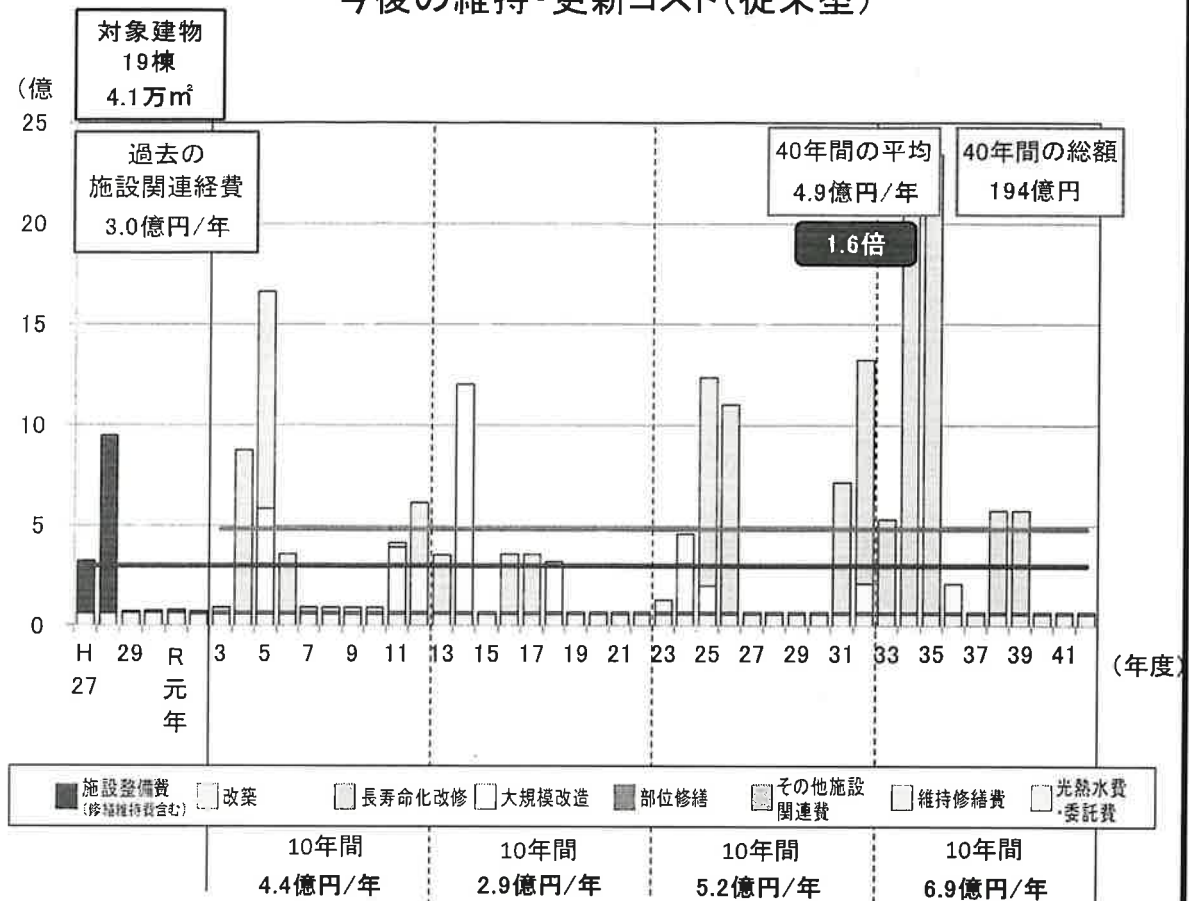


2) 従来の修繕・改修を続けた場合の維持・更新コスト

今後の施設の維持・修繕の方法について、20年を目途に大規模改造を行い、40年で施設を建て替える従来の修繕・改修を今後も続けた場合、今後40年間のコストは約194億円（約4.9億円/年）を要する見込みです。

今後の施設の建て替えに要する費用は、令和4年度に玖波中学校の校舎や体育館の建て替えに要する費用が見込まれ、その後は特に令和25年度からの10年間に建て替えが集中し、改築に係る多額の費用を要する見込みですが、今後、人口の減少に伴い児童生徒数の減少が予想されることから、従来の建て替え中心の整備を継続することが難しい状況であり、対応策を検討する必要があります。

今後の維持・更新コスト(従来型)



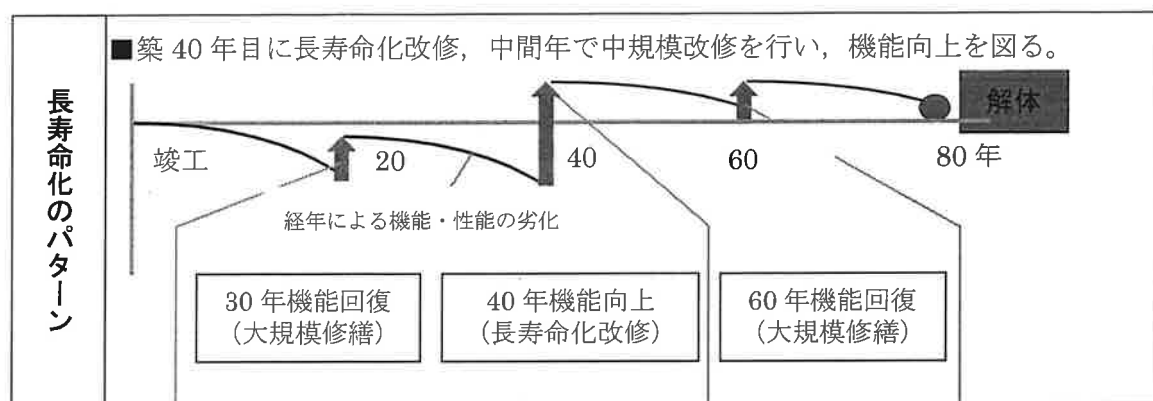
コスト算出対象施設一覧表

年度	改築	大規模改造
R4	玖波中校舎, 玖波中体育館	
R5	玖波中校舎, 玖波中体育館 栗谷小校舎, 栗谷小体育館	大竹中校舎
R6	栗谷小校舎・栗谷小体育館	
R11		大竹小校舎
R12	大竹中体育館	大竹小校舎
R13	大竹中体育館	
R14		小方小中校舎, 小方小中体育館, 小方小中プール, 給食センター
R16	大竹小体育館	
R17	大竹小体育館	
R18		玖波小校舎
R24		玖波中校舎・体育館
R25	大竹中校舎	
R26	大竹中校舎	
R31	大竹小校舎	
R32	大竹小校舎	大竹中体育館
R33	大竹小校舎	
R34	小方小中校舎, 小方小中体育館, 小方小中プール,	
R35	小方小中校舎, 小方小中体育館, 小方小中プール, 給食センター	
R36		大竹小体育館
R38	玖波小校舎	

②長寿命化による修繕・改修と維持・更新コスト

1) 長寿命化による修繕・改修

建て替え中心から、建物を80年使用する長寿命化に切り替えていくためには、計画的に機能向上と機能回復に向けた修繕・改修を実施する必要があります。



築20年目 大規模修繕	築40年目 長寿命化修繕	築60年目 大規模修繕
経年劣化による損耗，機能低下に対する機能回復工事	経年劣化による機能回復工事と，社会的要求に対応するための機能向上工事	経年劣化による損耗，機能低下に対する機能回復工事
・屋上防水改修 ・外壁改修 ・設備機器更新(空調設備等) ・劣化の著しい部位の修繕	・防水改修(断熱化) ・外壁改修 ・開口部改修 ・内部修繕(床・壁・天井) ・設備改修(空調設備，エレベーター等) ・プール改修 ・グラウンド等改修	・屋上防水改修 ・外壁改修 ・設備機器更新(空調設備等) ・劣化の著しい部位の修繕

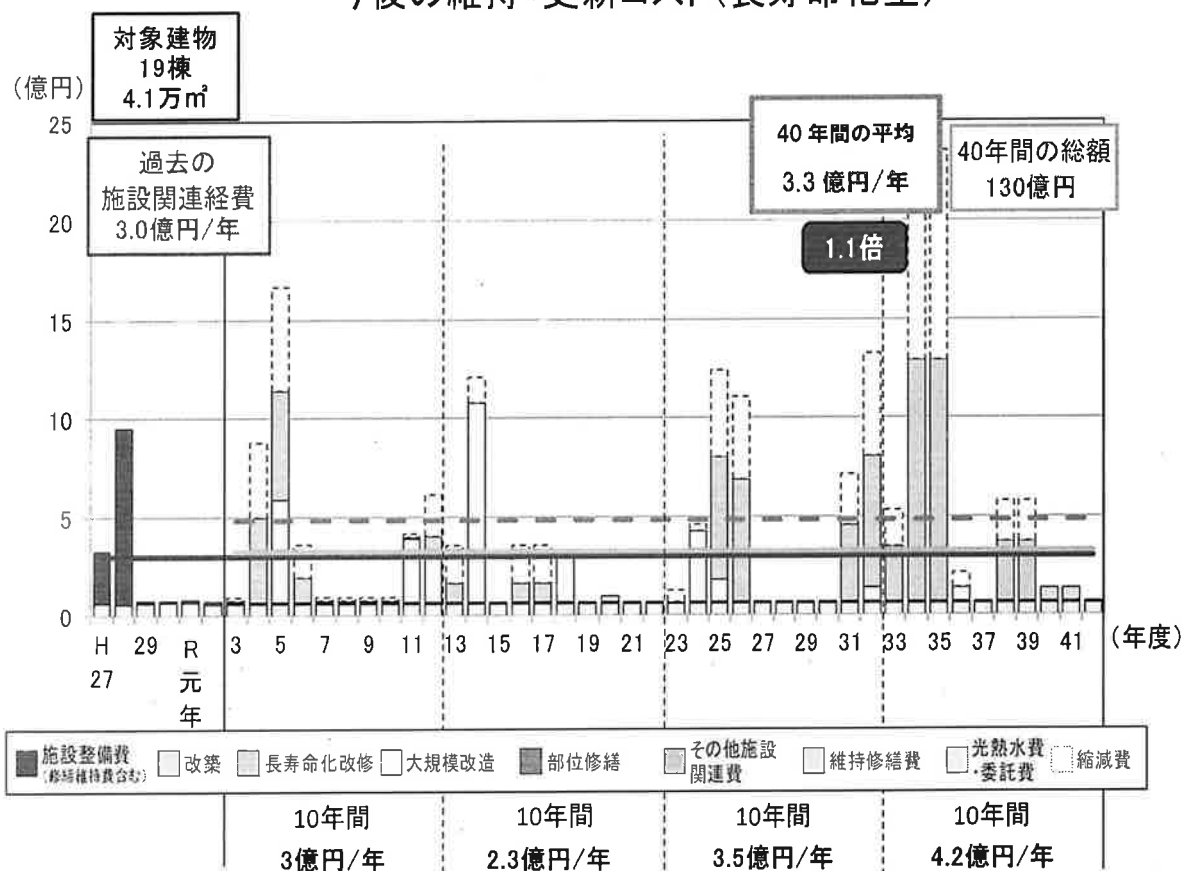
○コスト試算の方法

長寿命化	改修周期	40年
	コストの算出方法	建設単価(実績) × m ² × 60%
大規模改修	改修周期	20年
	コストの算出方法	建設単価(実績) × m ² × 50%
部位修繕	C評価	今後10年以内に部位修繕を実施
	D評価	今後5年以内に部位修繕を実施

2) 長寿命化による維持・更新コスト

長寿命化により80年に建物を長寿命化した場合、今後40年間の維持・更新コストは総額約130億円(約3.3億円/年)となり、従来の建て替え中心の場合の約194億円(約4.9億円/年)より総額で約64億円(約1.6億円/年)、約33%の縮減となります。

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



(5) 学校施設整備の基本的な方針等

① 学校施設の規模・配置計画等の方針

1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針

学校施設の長寿命化計画は、平成29年3月に策定された「大竹市公共施設等総合管理計画」及び「施設類型別方針」に基づき、基本方針を定めます。

大竹市公共施設等総合管理計画

現状及び見通し	課題	公共施設等の管理に関する基本的な考え方と方針
【人口動向】 ○人口減少の進行により、公共施設等が過剰になる ○人口構造の変化にともない、市民ニーズが変化する	■施設の老朽化への対抗 ○施設の長寿命化や予防保全によるライフサイクルコストの縮減	○計画的な維持管理の実施 ①点検・診断などの実施方針 ②維持管理・修繕・更新などの実施方針 ③安全確保の実施方針 ④耐震化の実施方針 ○長寿命化の推進 ⑤長寿命化の実施方針
【財政】 ○人口の減少に伴い、一般財源が減少する ○施設の更新が集中する時期がある	■施設送料の縮減 ○計画的な施設総量の縮減	○施設総量の適正化 ⑥統合や廃止の推進方針 ○地域状況に応じた効率的な施設配置 ②維持管理・修繕・更新などの実施方針 ⑥統合や廃止の推進方針
【公共施設】 ○建築後30年以上経過した施設が全体の6割を超え、老朽化が進んでいる ○多くの施設が更新時期を迎え、施設の維持管理、修繕、更新費用の負担が大きくなる	■コストの縮減 ○公共施設の維持管理、修繕、更新などに係る費用の縮減及び平準化	○更新費用の縮減と平準化（維持管理費用の適正化） ②維持管理・修繕・更新などの実施方針 ⑤長寿命化の実施方針 ⑥統合や廃止の推進方針 ○適正な施設の更新と民間活力の導入 ②維持管理・修繕・更新などの実施方針 ⑥統合や廃止の推進方針 ○施設使用料の見直し ②維持管理・修繕・更新などの実施方針
【インフラ施設】 ○老朽化が進んでいる ○施設の維持管理、修繕、更新に多額の費用負担が発生する ○上下水道局においては、節水対応製品の普及などにより、料金等収入が伸び悩んでいるが、今後の人口減少により、収入はさらに減少する	■市民ニーズや利用状況の変化への対応 ○市民ニーズや利用状況の変化に対応した施設配置や運営 ○水道料金等収入の減少に対応した、効率的な事業運営	○民間活力の導入など幅広いサービス提供方法の検討 ②維持管理・修繕・更新などの実施方針

公共施設等総合管理計画の施設類型別方針【学校教育施設】

- 長寿命化を図るために診断、施設の安全性、耐久性、不具合性、適法性を必須項目として、点検・診断等を実施します。
- 定期的な点検や修繕による予防保全型維持管理を行い、計画的な機能改善による施設の長寿命化を推進します。



学校施設の長寿命化計画の基本方針

① 計画保全計画による長寿命化の推進

【実施内容】

- 今後、躯体の安全性の詳細調査を実施し、可能な建物は80年に長寿命化
- 適切な維持管理、長寿命化による財政負担の平準化及びライフサイクルコストの削減

【説明】

今後も継続して使用する施設については、これまでの「事後保全」の維持管理だけでなく、長期的な視点で計画的な修繕を行う「予防保全」の考え方を取り入れ、定期的な点検や診断結果に基づく計画的な保全を実施し、公共施設等の長寿命化を推進します。

② 施設保有量の最適化

【実施内容】

小中学校の適正規模・適正配置の推進

【説明】

より良い教育環境の整備のため地域の実情に応じた適正な施設配置を進め、施設の更新や大規模修繕時には、将来の児童・生徒数見込みに基づき、適切な施設規模や仕様を検討します。

③ 市民ニーズに対応した施設の活用

【実施内容】

学校の多目的利用・複合化により市民に身近で便利な地域のコミュニティ、スポーツ、防災拠点化

【説明】

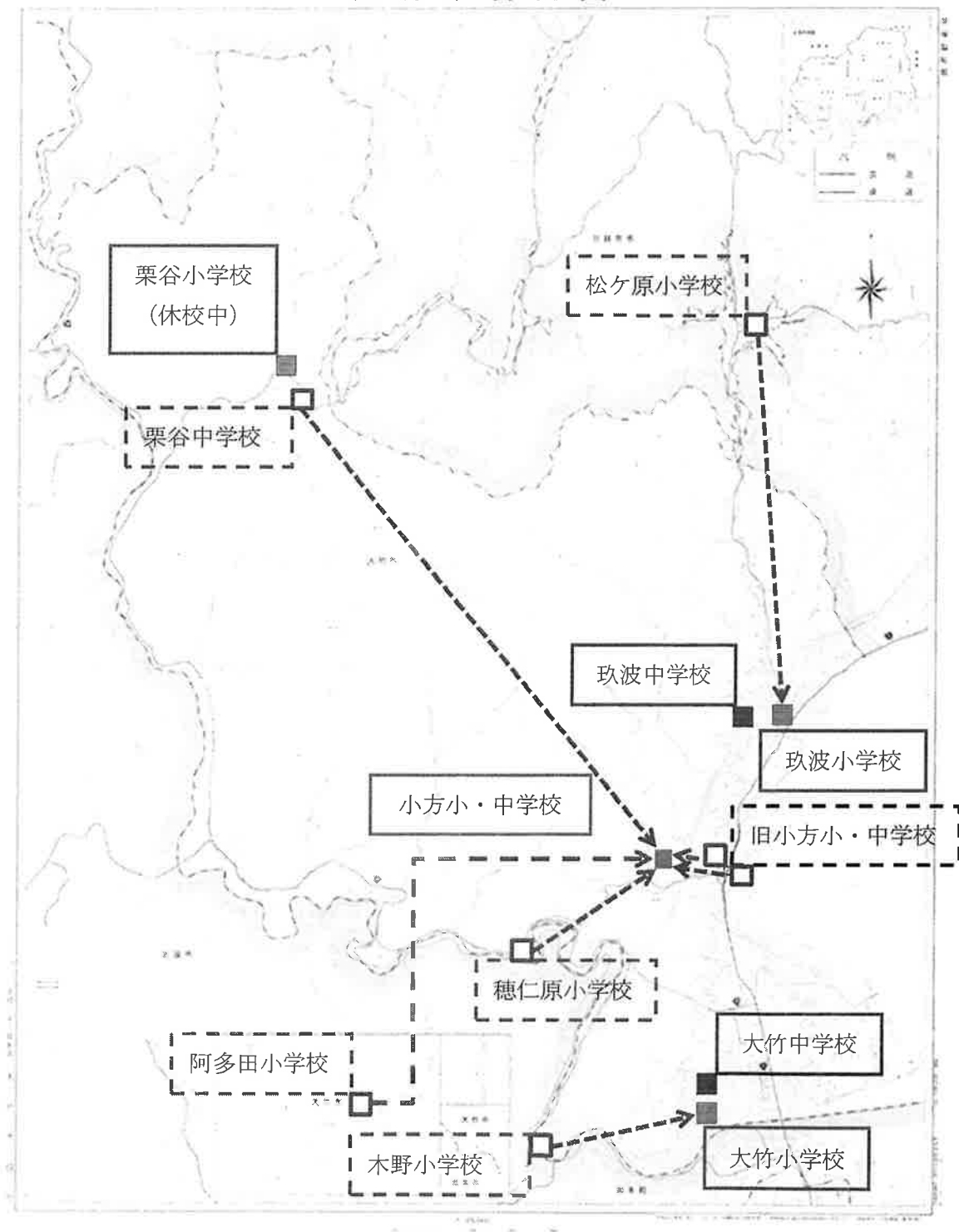
大規模修繕、建て替え時等には小規模校や将来児童生徒が減少する学校は、周辺の公民館等の機能を集約・複合化し、地域のコミュニティと防災の拠点化を図ります。

2) 学校施設の適正配置計画

これまでの学校の統廃合は、山間部及び島しょ部の小・中学生の教育環境を充実すると共に、市域内の教育環境の格差を是正するため、原則として複式学級の解消を目指して実施した結果、現在は小学校4校（うち1校休校）、中学校3校の配置となっています。

今後は沿岸部の学校施設の老朽化や小規模な学校の教育環境に配慮し、通学条件などを考慮したうえで、適正な規模となるよう、必要に応じて統合を検討します。

大竹市管内図

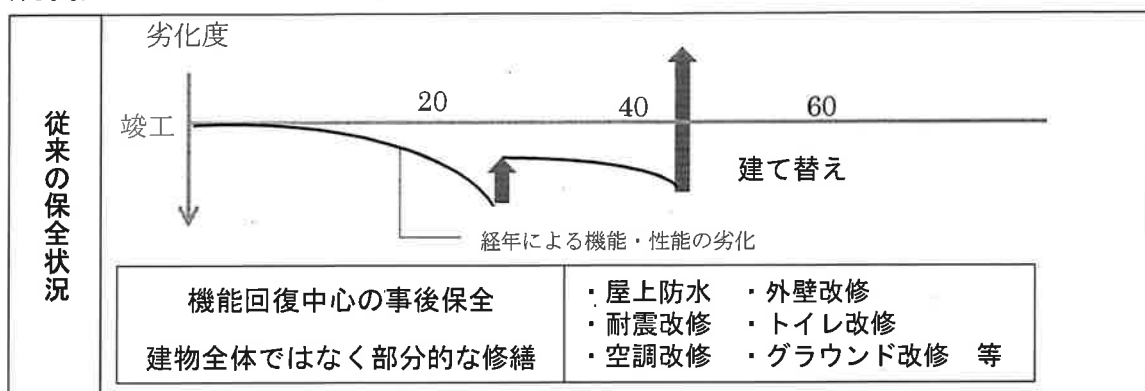


②改修等の基本的な方針

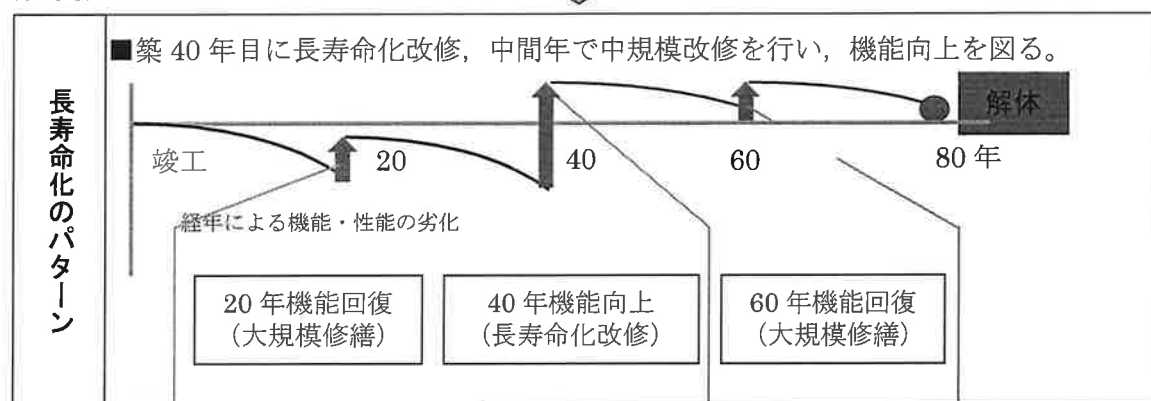
1) 長寿命化の方針

今後は、建て替えから長寿命化改修による建物の長寿命化に切り替え、部位改修を併用した整備を行います。長寿命化改修をした場合の修繕・改修周期は次のとおりです。

(再掲)



(再掲)



築20年目 大規模修繕	築40年 長寿命化修繕	築60年目 大規模修繕
経年劣化による損耗，機能低下に対する機能回復工事	経年劣化による機能回復工事と，社会的要求に対応するための機能向上工事	経年劣化による損耗，機能低下に対する機能回復工事
・屋上防水改修 ・外壁改修 ・設備機器更新(空調設備等) ・劣化の著しい部位の修繕	・防水改修(断熱化) ・外壁改修 ・開口部改修 ・内部修繕(床・壁・天井) ・設備改修(空調設備，エレベーター等) ・プール改修 ・グラウンド等改修	・屋上防水改修 ・外壁改修 ・設備機器更新(空調設備等) ・劣化の著しい部位の修繕

(6) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

① 改修等の整備水準

長寿命化において配慮すべき性能に対して、費用対効果を考慮して、最適な仕様を設定します。また、将来の社会的要求水準の高まりへの対応、建物の整備レベルの統一を図ります。

学習環境	多様な学習の場	I	C	T
生活環境	トイレのドライ化	木	質	化
省エネ化	L E D 照 明	高断熱・高気密化		
バリアフリー	エ レ ベ ー タ ー	多目的トイレ	点 字 ブ ロ ッ ク	
防災・防犯	自 家 発 電	防 犯 監 視	マンホールトイレ	

② 維持管理の項目・手法等

○各学校施設の維持管理を効率的に実施するため、右の表を使用して、点検・評価を実施し、結果を基に調査や修繕の方法、周期等を設定します。

○点検は5年おきに実施します。

通し番号	XXXX-XX-X				
学校名	A学校	学校番号	1301	調査日	平成28年9月20日
建物名	校舎			記入者	〇〇
棟番号	1		建築年度	昭和44 年度(1969 年度)	
構造種別	鉄筋コンクリート造	延床面積	2,502 m ²	階数	地上 3 階 地下 0 階

部位	仕 様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(形式の更新)		劣化状況 (複数回答可)		特記事項	評価
		年度	工事内容		箇所数		
1 屋根 屋上	☐ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☐ 勾配屋根(長尺金属板、折板) ☐ 勾配屋根(スレート、瓦類) ☐ その他の屋根 ()	H7	防水改修	☐ 降雨時に雨漏りがある ☒ 天井等に雨漏り痕がある ☐ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根裏材に腐・損傷がある ☒ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフィングを目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある	2	EXP-J金物に脱落がある	C
2 外壁	☒ 塗仕上げ ☒ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル(ALC等) ☐ その他の外壁 () ☒ アルミ製サッシ ☐ 鋼製サッシ ☐ 断熱サッシ、省エネガラス	H3 H10	外壁改修 耐震補強	☒ 鉄筋が見えているところがある ☒ 外壁から漏水がある ☒ 塗装の剥がれ ☒ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☐ 窓・ドアに腐・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の腐・腐食 ☐ 既存点検等で指摘がある	5 多数	北側の劣化	D

部位	改修・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部装具) (間仕切り等) (照明器具) (エアコン)等	☒ 老朽改修 ☐ エコ改修 ☐ トイレ改修 ☐ 法令適合 ☐ 校内LAN ☐ 空調設置 ☐ 障害児等対策 ☐ 防犯対策 ☐ 構造体の耐震対策 ☐ 非構造部材の耐震対策 ☐ その他、内部改修工事	H5	大規模改修	B
4 電気設備	☒ 分電盤改修 ☐ 配線等の敷設工事 ☒ 昇降設備保守点検 ☐ その他、電気設備改修工事	H22 H18	指摘無し	A
5 機械設備	☐ 給水配管改修 ☐ 排水配管改修 ☒ 消防設備の点検 ☐ その他、機械設備改修工事	H27	指摘への対応済み	C

(7) 長寿命化の実施計画

① 改修等の優先順位付けと実施計画

経年劣化による損耗，機能低下に対する機能回復を図るため，建築後40年程度経過した時点での長寿命化改修として，

- ・ 屋外防水改修
- ・ 外壁改修
- ・ 内部改修（床・壁・天井）
- ・ 設備改修（給排水管など）

等を実施するほか，施設・設備の耐用年数や，損耗・機能低下の状況に応じて，随時，屋外防水改修，劣化の著しい部位の修繕等を実施していきます。

また，建物の長寿命化を図るための整備に併せ，教育環境の質的向上や防災機能の強化（災害時の避難所機能の向上のためのバリアフリー化やトイレの洋式化等）を図るための整備を効率的に進めることを検討していきます。

(8) 長寿命化計画の継続的運用方針

① 情報基盤の整備と活用

施設の状況や過去の改修・交換履歴、事故・故障の発生状況等をデータベースに蓄積するとともに、12条点検等の法的点検の結果等、継続的な点検・調査の結果に基づいて、適切に更新を行っていく。

② 推進体制等の整備

学校施設の所管課である教育委員会事務局総務学事課を中心に、本計画を含む学校施設のマネジメントを行い、日常の施設管理の質を向上させるため、毎月の巡回点検や各種報告書を活用するとともに、市長部局との連携を強化し、全庁的な体制で不具合箇所の早期把握と対応を図っていく。

③ フォローアップ

本計画は、「大竹市公共施設等総合管理計画」の中で、年次及び個別の事業費を精査していく。また、事業の進捗状況、劣化調査などの結果に加え、児童生徒数の変化や財政面等を踏まえた上で、必要に応じ見直しを図るものとする。